

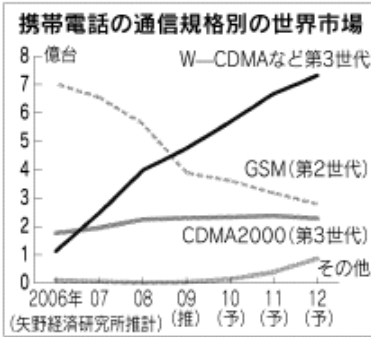
# 京セラ 中南米で携帯市場進出

## メキシコで今秋にも

京セラは中南米の携帯電話機市場に進出する。今秋にも、新興国を中心に利用者が急増している「W-CDMA」規格の端末をメキシコに投入する。同社はこれまで北米で普及している「CDMA2000」規格に特化してきたが、W-CDMA規格の製品を加えることで販売地域を広げる。赤字だった北米事業の収益改善に伴い、海外市場で拡大策に転じる。

### 「W-CDMA」投入

京セラは米通信機器メーカーの連合企業。同社の京セラコミュニケーションズを通じて、メキシコへの納入も検討している。通信会社は端末を納入することで合意し、米諸国へ販路を拡大する。価格帯はやや高めだが、低価格帯は充実させ、低価格機種が多い既存メーカーに



後、現地では第2世代携帯電話の規格として普及した「GSM」の利用者もまだ多いため、W-CDMAとのデュアル端末も用意する見通し。いずれも生産はシンガポールの電子機器の受託

生産サービ  
ス(EMS)  
大手、フレ  
クストロニ  
クスに委託  
すると見ら  
れる。  
これまで  
京セラは北  
米の通信会  
社や日本で  
はKDDI

京セラは北米市場での苦戦が響き、通信機器事業の赤字が続いていた。中国工場の閉鎖や開発・営業体制の再編など一連のリストラで、黒字化に

メドを付けた。京セラの携帯電話の世界出荷台数は、年1100万台強と見られる。DCジャパン(東京・千代田)によると日系メーカーに

カーでは英ソニー・エリクソンに次いで2位。北米で多機能携帯電話「スマートフォン」を発売するなど、海外展開を加速